

慢性咳嗽で発症したブロンコレアの一例

小柳久美子¹⁾ 灰田美知子¹⁾²⁾ 高松富佐子¹⁾²⁾

(半蔵門病院アレルギー呼吸器内科¹⁾ エパレク(環境汚染等から呼吸器患者を守る会)²⁾)

ブロンコレアは泡沫様と卵白様の二層性の痰が100ml/日以上喀出される病態である。1年以上続いた咳嗽が先行し、ブロンコレアの診断に至った症例を経験したので報告する。症例は39歳女性。2004年2月(37歳)にインフルエンザに罹患した後咳が止まらなくなり、近医で咳喘息の診断。吸入ステロイドを開始し近医に6週間入院したが改善しないため、2005年4月に当院を初診。気管支喘息の診断で内服薬も加えられたが仕事が忙しく病状が安定しないため6月に入院。ステロイド点滴にて咳は改善したが、7月半ば頃から痰の多さを訴えるようになった。蓄痰を指示したところ、180ml/日以上、上層部に白色泡沫様の部位が認められ、気管支生検では、杯細胞の増加と基底膜の肥厚、粘液の増加を認め気管支喘息とブロンコレアと診断された。ステロイド点滴の継続で痰は120ml/日まで減少したが、副作用が多岐に渡ったためステロイドを漸減したところ痰量が改善せず、フロセミド吸入60mg/日を併用したことで喀痰量は4週後に40ml/日に改善した。痰を伴う慢性咳嗽の場合、痰培養や細胞診などの他に、蓄痰も行うことで診断が可能になる症例も含まれていると考えられる。